

# 株式会社百笑市場 輸出事業ご紹介

---



株式会社百笑市場  
事業統括：長谷川有朋  
2020年12月

# 会社概要

---

会社名：株式会社百笑市場

代表取締役社長：染野 実

創立：平成23年10月19日

資本金：1570万円

役員：9名（代表含む）

従業員：2名

事業内容：茨城産米の輸出

取扱商品：米

本社所在地：茨城県下妻市半谷514-2

電話番号：0296-39-0913

年商：1.2億円

役員（全員認定農業者）

飯ヶ谷 俊弘

石島 和美

稲川 隆

小林 勝憲

小林 稔

坂入 隆

染野 実

谷中 英男

櫻井 宜育

## 起業理由

---

現在、日本国内の年間米需要は約710万トンであるが、人口減少が加速（2050年には1億人を割る）、喫食率低下等の理由から、毎年約10万トン以上もの需要減が見込まれている。米消費の衰退により、作っても売れない時代がすでに来ている。

また新型コロナウイルスの影響も多大にあり、直近の国内年間需要は22万トン減少、国内主食用米の在庫量は200万トンを超え、新米の価格低下につながっている。

一方、海外では新興国の人口増加と所得の向上、また消費者の嗜好の変化、多様性が顕著であり、日本産米の需要が増え続けている。東南アジア、米国、ヨーロッパ、オセアニアなどで日本産米の市場が広がっている。

日本政府が米の需給安定の為、輸出米を奨励し始めて 3年目に入る今年、数多くの日本企業が米の輸出販売に力を入れており、国内の需給安定、生産農家の所得向上、ひいては我が国が世界の食料供給に寄与出来る事を目標にする。

## 企業理念

---

日本の食文化の象徴である米を輸出し、本物の和食の味を世界中の人々に広めると共に、日本の稲作農業の所得向上とさらなる発展に寄与する。

# 輸出の取組の経緯、総輸出量2500トン達成間近

- 2016年（平成28年産） → 8名の百笑市場創設生産者が「ゆめひたち」60トンを米国へ試験輸出開始。  
サンフランシスコ周辺。
- 2017年（平成29年産） → 35名の生産者が参加、240トンを輸出。  
小売用「茨米」ブランドを展開開始。
- 2018年（平成30年産） → 60名の生産者が参加、470トンを輸出。  
販売地域を全米、シンガポール、香港に拡大。
- 2019年（令和元年産） → 70名の生産者が参加、740トンを収穫。  
カナダへの販路を拡大
- 2020年（令和2年産） → 76名の生産者が参加。970トンを収穫。  
オセアニア、東南アジアへ販路を拡大。



# 茨城県産米輸出協議会の概要

県内の生産者が主体となり、関係行政等と組織する協議会

[設立]平成28年

[生産者数]76生産団体

[栽培面積]約180ha

[販売金額]1.3億円（R2年産）

[出荷量]970トン

[栽培品種]ほしじるし、ハイブリッドとうごう3号、ゆめひたち、コシヒカリ、あきたこまち、つきあかり

茨城県内の大規模有力生産者、担い手農家が多く参加

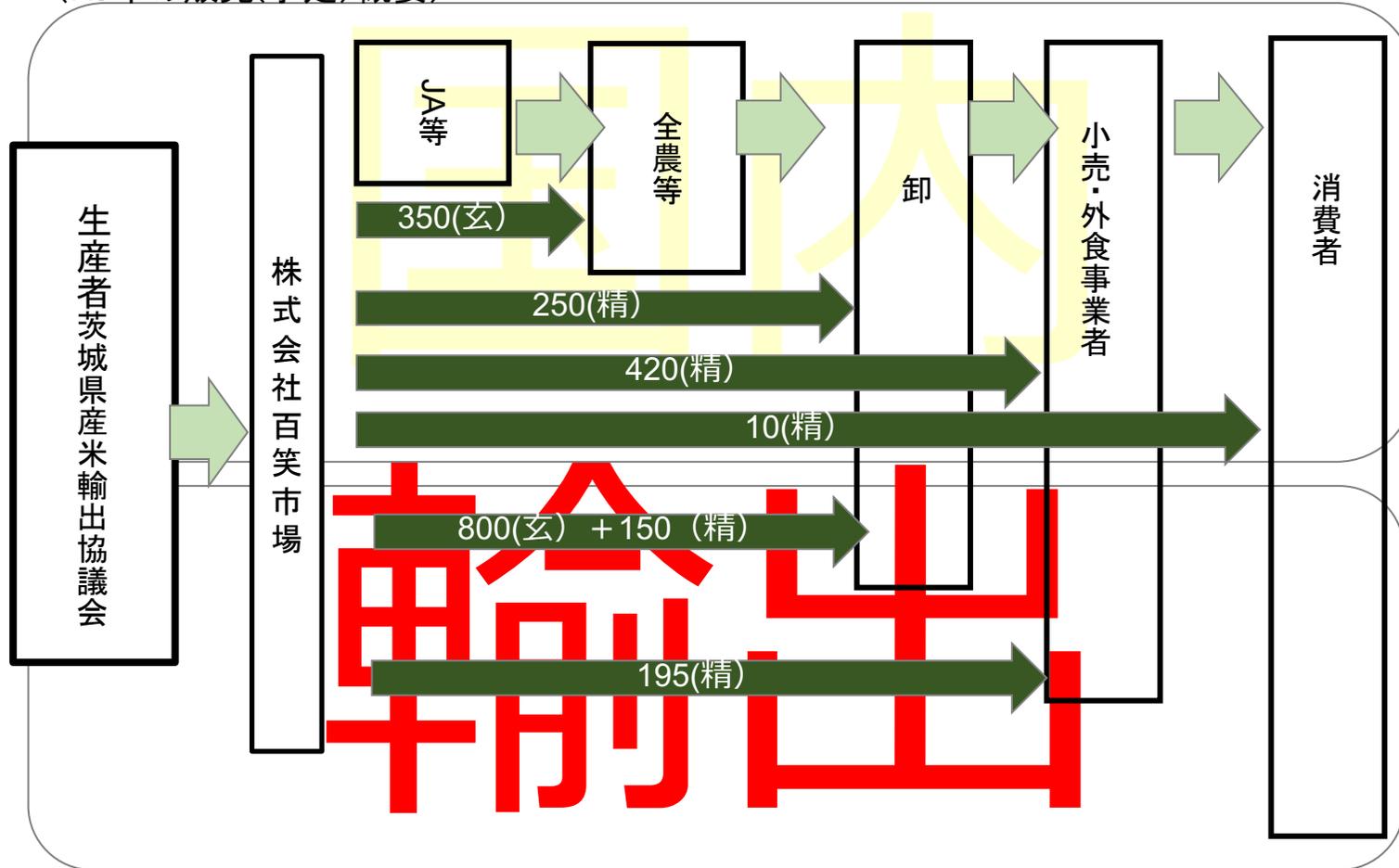
最高齢83歳、最年少26歳



生産者は県内全域

# 事業組織体制図及び連携体制図

(R3年の販売(予定)概要)



# 取扱商品



二酸化炭素充填真空包装  
精米：染野GF  
小売店販売価格帯  
1袋6.8kg/  
\$24.99～\$39.99  
(\$3.7～\$5.9/kg)



通常包装  
精米：埼玉樋口米穀  
小売店販売価格帯  
1袋5kg/  
\$18.99～\$24.99  
(\$3.8～\$5.0/kg)

## 品種

- ・とうごう3号 (F1 多収品種)
- ・ほしじるし (多収)
- ・ゆめひたち (多収)
- ・コシヒカリ
- ・あきたこまち
- ・ツキアカリ (多収)

# 販促活動実績

生産者と共に試食販売、商談会

述べ50人の生産者と海外渡航20回、3万人以上の方に茨城県産米を試食して頂き、740トンの供給を上回る2000トン以上の需要を生むまでに成長。

渡航した生産者の意識に大きな影響を与えることができ、輸出米の作付け面積拡大、生産意欲向上に寄与している。

引き続き生産者を巻き込んだの事業を展開して行きたい。



**茨城新聞**  
6月21日 日曜日  
茨城新聞社  
〒310-8686 水戸市宮原町978-25  
電話 029-239-3011(代) FAX 029-301-0362  
http://ibaraki.news.jp  
編集長 電話 029-239-3020 FAX 029-301-0362  
代表取締役社長 電話 0120-029-218  
15時～18時(受付時間)

お風呂も調理も  
ガスでエコ!  
**LPガス**  
LPG 株式会社

# 巣ごもり需要 コメ堅調

世界的な新型コロナウイルス感染症の流行は、本県の農産物輸出にも影響を及ぼしている。海外にも外出自粛により外食が控えられたことで、長期にわたる巣ごもり需要が注目を集めている。県産米は長期にわたる注文が止まりず、輸出も堅調に推移している。外食向けと巣ごもり需要の両方から需要が伸びている。

■長期保存  
茨城県米穀流通センター(水戸市)は、海外向けに輸出している米の在庫が減少している。同センターは、海外向けに輸出している米の在庫が減少している。同センターは、海外向けに輸出している米の在庫が減少している。

## 本県農産物、輸出で明暗



## 注スト 文 外食向け常陸牛苦戦

茨城県常陸牛は、海外向けに輸出している。同センターは、海外向けに輸出している米の在庫が減少している。同センターは、海外向けに輸出している米の在庫が減少している。

■危機感  
茨城県米穀流通センター(水戸市)は、海外向けに輸出している米の在庫が減少している。同センターは、海外向けに輸出している米の在庫が減少している。

新型  
コロナ  
茨城県米穀流通センター(水戸市)は、海外向けに輸出している米の在庫が減少している。同センターは、海外向けに輸出している米の在庫が減少している。



(第3種郵便物認可)

# 新米シンガポールへ 茨城県産米 輸出推進協 前年の1.3倍、95ト計画

【いばき】茨城県内の米生産者や県などで構成する県産米輸出推進協議会は9日、ひたちなか市の茨城港常陸那珂港区の物流倉庫で、シンガポール向けに輸出する2020年度産米の出荷式を開き、第一便25トをコンテナに積み込み送り出した。

出荷式には生産者や大井川和彦知事ら関係者、物流企業の代表者など約80人が出席。コンテナへの積み込み作業を見守った。輸出を開始して5年目となる今年は、前年度比約1.3倍増の計955トを翌年8月をめどに輸出する計画。同協議会は、今後、海外市場での米の需要量を調査しつつ、さらには取引先を開拓していく方針だ。



茨城港常陸那珂港区の物流倉庫でコンテナへの積み込まれる輸出米(茨城県ひたちなか市)

輸出開始して5年目となる今年は、前年度比約1.3倍増の計955トを翌年8月をめどに輸出する計画。同協議会は、今後、海外市場での米の需要量を調査しつつ、さらには取引先を開拓していく方針だ。

輸出米の生産者は、前年の70人から76人に増え、作付面積も約39

議会は5年前に生産者8人でスタート。生産面積は10.8畝、出荷量は60トだった。当初は、米国向けに県の推奨品種「ゆめひたち」の輸出を開始。その後、米国やシンガポールなど本県産米の試食PRなどの販促活動を展開。出荷量は約16倍に上がった。現在は米国の他、香港、シンガポール、フィリピンなどに販路を拡大。加えて、オーストラリアやニュージーランドなどのオセアニア地域を視野に輸出拡大に向け検討している。

## いちす目ぞろえ JAしおのや



花の生育を確認(ら市で)

# 中長期、目標輸出数量

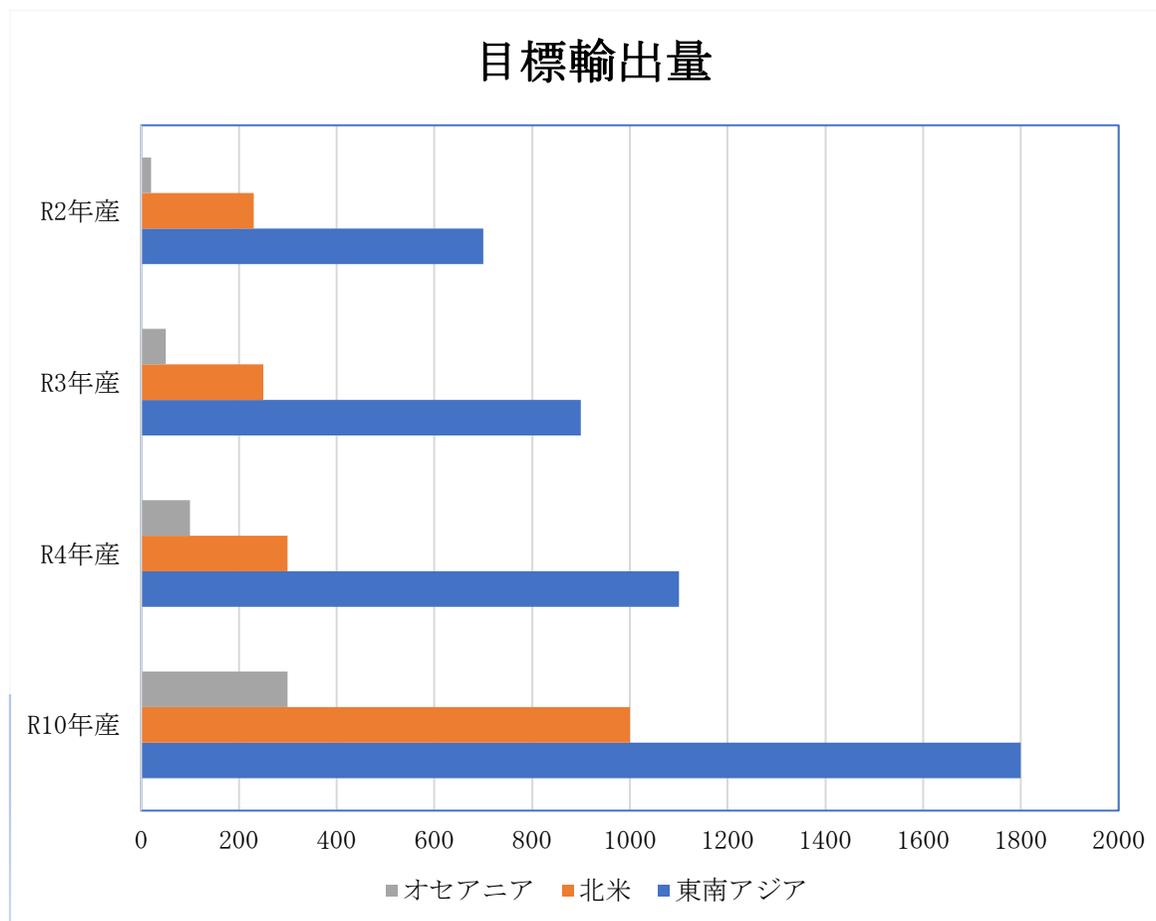
販売計画、目標数量

R2年産：970トン

R3年産：1200トン

R4年産：1500トン

R10年産：3100トン



END